

脳神経疾患に幅広く対応し 地域医療に貢献



医療法人脳神経研究センター
新さっぽろ
脳神経外科病院
理事・院長
大瀧雅文

厚別区における唯一の脳神経疾患の専門病院として、救急医療に集中して取り組むとともに、入院された重症の脳卒中や頭部外傷などの患者さんには超急性期から回復期に至るまで継ぎ目のない治療を行っています。また、高度な専門治療も推進しており、脳の太い動脈に血栓が詰まって発症後間もない脳梗塞の場合、最新の脳血管内治療機器を用いて血栓を取り除く治療が24時間対応可能な体制を整えています。くも膜下出血をきたした破裂脳動脈瘤に対しても、開頭によるクリッピング術に加えて、血管内からマイクロカテーテルを介して瘤内にコイルを詰める手術も増えています。さらに破裂していない大きな脳動脈瘤に対しては、瘤の入口を金属製の細かな網目ステントで覆い瘤内を血栓化させるデバイス

治療（フローダイバーター）も可能となっています。

一方、外来診療においても、片頭痛と診断された場合、頭痛発作を予防するため、その原因物質を標的とする薬の皮下注を慢性頭痛外来で行っています。また、手足のしびれ、眩暈や歩きづらいなどの症状があり、パーキンソン病や脳の変性疾患が心配な場合には脳神経内科専門医による診察（予約制）、あるいは脊椎や脊髄の病気に不安を感じる場合には脊椎脊髄外科専門医による診療を行っています。さらに、一側の眼瞼周囲や口角のピクツキ（半側顔面けいれん）や顔の一部での刺し込むような痛み（三叉神経痛）に対して、薬が効かない場合には手術治療も可能です。そして認知機能の衰えを心配される方には、もの忘れ外来（予約制）を受診していただき、軽度認知障害と診断された場合、脳内に蓄積したアミロイドβを標的とするモノクローナル抗体を用いた治療を行っていますので、お気軽にご相談ください。